

柑橘・キウイの安定経営目指し研修 ～優良園管理者を表彰～

神奈川県内の柑橘とキウイの維持発展と情報交換に向け、3月15日、「柑橘安定経営研修会」（主催：全農かながわ、（一社）神奈川県果実協会）がJAかながわ西湘本所で開催され、生産者、JA職員、関係機関など約70名が参加した。

国内では果実の消費停滞が続く中、TPP大筋合意により、国内柑橘市場にも将来影響が出る事が懸念される。JA全農かながわ根倉修副本部長は「JAグループとして、安全・安心な国産農産物を消費者にPRし理解を求めていく。引き続き、高品質果実の安定出荷や品質基準の徹底などにご協力をお願いしたい」と挨拶。「組合員や会員JAの負託に応えられるよう、県下JAと協力し、土壌診断助成や、農機の購入支援等、各種経済支援対策を進めていく。販売面では市場販売を機軸としながら、中央ベジフルセンターでの直販機能強化も進める」と協力を呼びかけた。産地を代表し、JAかながわ西湘の沼田照義組合長が「品質維持や計画出荷等の重要性が増しており、産地として地域の柑橘経営安定対策に取り組んでいく。販売面では、今後も市場販売を中心としながら、県下JA農産物直売所や全農と連携し、柑橘の直売にも取り組んでいく」とし、3月、4月の土曜日・計4日間にわたり県下農産物直売所10店舗で「湘南ゴールド」や中晩柑の消費拡大フェアを展開する事を紹介した。

講演では、国立研究開発法人・農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所の杉浦実氏が、「みかんの健康機能性」について研究成果を紹介した。浜松市三ヶ日町地区の住民約1千人を対象に約10年間追跡調査した研究などから、ミカンに含まれるβ-クリプトキサンチンの血中濃度が高いと、糖脂質代謝の改善や、骨代謝改善・骨塩溶解抑制などの効果が見られ、生活習慣病の発生病リスクが低下する事がわかった。このデータに基づき、JAみっかびはミカンを生鮮品として初めて「機能性表示食品」に登録した。日本では「果物＝嗜好品」と認識され、諸外国に比べ摂取量も少ない。「果物は健康維持促進のために摂りたい機能性食品という意識の醸成が、消費拡大につながるのでは」と締めくくった。また、県農業技術センター足柄地区事務所が、湘南ゴールドに発生する「さび果」の発生条件や防除などの営農情報を提供した。

研修会と合わせ、県柑橘・キウイ優良園管理共進会褒章授与式を行った。平成27年10月に、県下JAの一次審査を通過した柑橘9園、キウイフルーツ11園を審査した結果、小嶋吉治氏（＝「吉」の上部は、正しくは「土」）（JAかながわ西湘）が柑橘園共進会で県知事賞を、飯山富夫氏（JAかながわ西湘）がキウイ園共進会で県知事賞を受賞した。また、平成27年度園芸功労賞（柑橘部門）を鈴木裕章氏（JAかながわ西湘）が受賞した。鈴木氏は地域の温州みかん栽培の高品質化に貢献したほか、「湘南ゴールド」の導入・普及に深く関わり、生産・販売組織の会長を務めるなどブランド確立に尽力した事など、地域農業のリーダーとしての功績が評価された。



県知事賞を受賞した
飯山富夫氏



県知事賞に輝いた
小嶋吉治氏